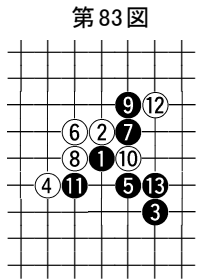


遊星ガイド (10)

九段 河村典彦

今回は別の白4の防ぎを研究していこう。

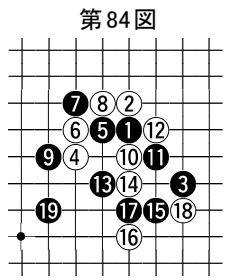
【第83図】この白4は山月山おろしを思わせるが、黒3の位置が一路違う。この違いがどう影響するのだろうか？



まずは黒5と引く手が真つ先に考えられる。この手は遊星ならではの一手である。無条件にこの三引きを許してはいけないが、白6と止めた形がどうなっているかがカギとなる。続く黒7が正しい位置に来るだけに、黒が打てそうである。

白8と引かれる手が黒にとつて怖い手となるが、黒9と先手で止められる。その後の打ち方が難しいように見えるが、黒11から13と打てば白は手も足も出なくなる。

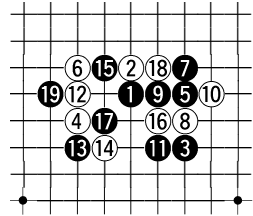
【第84図】続いての黒5は一番普通に見える。山月山おろしにならつて白6と打つのが強そうである。



で黒にはいろいろな打ち方があるが、白9と引かれる手が嫌なので、黒9と押さえておく手を実戦的である。対して白も10と押さえておくぐらいなので、黒11と絶好点に構えることができる。以後黒は13、15とひたすら白の連を叩いておき、徐々に優位を拡大していくのが良いだろ

う。黒19と構えることができれば、まあ満足な展開となるだろう。この後は力の見せどころだ。

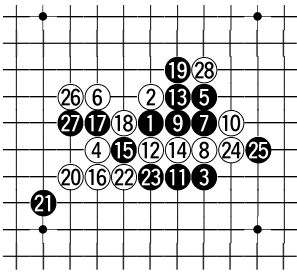
第85図



【第85図】前述の黒5は打たせてもらえないので、これからがこの形の本番となる。黒5は1、3の石をつなげる好形だが、白6もまた好形なので、どちらに分があるのか興味深い所だ。ただやはり先手を握っている黒が主導権を握れるはずで、ここで一本黒7と引けるのが大きい。こうすることにより、黒9とこちらに引けることになる。白10を反対なら、もちろん上止めに四三が残るので、白10を強要できる。黒11も

またいろいろ考えられるが、単に11と押さえておくのが結局は良いようだ。白12から白も全力で防ぐ必要がある。白12、14は少々ひねった防ぎに見えるが、案外急所を突いている。以下黒19までお互いの急所を叩いておく展開が考えられる。

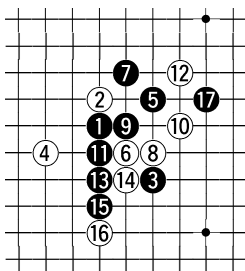
第86図



【第86図】黒5も白6に対し黒7と引くことになるので、前図と同じになる。黒11までに白12を変えてみよう。白12と露骨に三々禁を狙うのもありそうだ。しかし黒はここで13と三々を解消し、手順に黒15と引き込める。当然の白16、黒17、白18の後に黒19から止めることができる。続いて白20、22と引く手が強く、黒は23と手順にノリ手が打てるが、白24の四ノビから白26と止めて先手になる。黒も27と止めておいて

左辺は止まるが、白28とくさびを打たれては、黒が勝つのは難しいだろう。

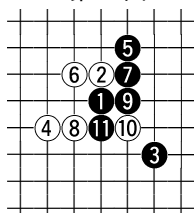
第87図



【第87図】黒5をもし咎めるとすれば、白6と止める手だろう。こう入られると、黒は7とこちらで組み立てることになる。白も8から白10まで黒7を意識した防ぎとなる。黒11から簡単に黒が勝てるように見えるのだが、四ノビやノリ手があり勝ち切れない。結局黒は13と打ち、白14に黒15、17と両方の筋を押さえておくぐらいが相場だろう。

こうなると白4の石が妙にいい所にあるように見えてくる。黒はいずれはこの石を相手にしないといけない。

第88図

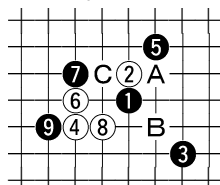


【第88図】黒5は白の連を止めているので立派な一手なのだが、いかにせん黒3の石が遠すぎる。しかし白も呼手が打てない状況なので、白6と黒の連を止めながら連を作るのは自然な発想だろう。当然黒は7と押さえることになるが、白8は山月山おろしでも出てくるけん制手。これで黒の攻撃を防いでいると思いたくなるが、堂々と黒9と打っておくのが盲点の一手。白10に黒11と素直に止めておけば、白はあれ？と思うに違いない。黒11

までの局面は、白が困ってしまう展開だ。

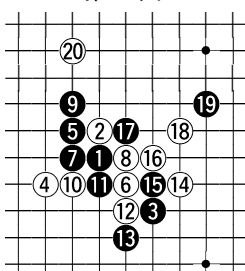
【第89図】白6の変化。ちよっと変な手だが、白6は一つの考え方だ。次に7と引けるので、一応呼手となっている。黒7で右辺に牽

第89図



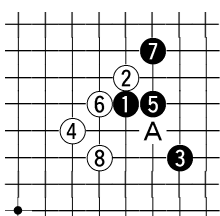
制する手があるといいのだが、黒5をAはB点が三々になってしまうので打ちにくいし、Bと引くのは白Cから止められてしまう。黒7といったん止めておく手が結局一番いいかもしれない。しかしそれには、白8と固まられる。黒9で止め切れるかが勝負となる。ただ、実戦的には白の方が打ちやすいだろう。

第90図



【第90図】黒5と貴重な連をここに使ってしまう手もあるにはある。続いて黒7と固まれば、ここだけで勝ち形を作ることができる。しかしやはり、黒3の石が離れているのが気がかりである。白8は当然だが、黒9、11と打ち、白12に対し黒13でようやく3の石が活きてくる。白14と叩いて白の方が形が良い。黒15、17と黒の辛抱が続くが、ここを凌がないと負けてしまう。白20まで打たれると、黒はなかなかチャンスがない。

第91図



【第91図】黒5で他に手がないか探ってみよう。本譜の黒5は成立するように見えるが、白6と引かれるとA点が三々になってしまうので、黒は困る状況となる。白8と組まれると白のスピードの方が速くなっており、白勝ちとなってしまう。他の黒5もなかなか見つかからないので、この白4に対し黒の5の候補は、4から5となるであろう。